

第1回 まち・ひと・しごと・ふるさと養父市創生総合戦略検証委員会 議事要旨

日 時 平成30年8月1日(水) 13時30分～16時30分

場 所 養父市役所 3階 第2委員会室

I. 進行状況等

1. 開会
2. 委員の委嘱
3. 市長あいさつ
4. 委員長あいさつ、委員・職員自己紹介
5. 協議事項
 - (1) 資料説明
 - (2) 本部評価について説明・協議
6. まとめ
7. その他
8. 閉会

II. 委員の意見等

◆地方創生・総合戦略について

- ・施策評価シートについて、「妥当である」がこんなにも多いのになぜ人口減少しているのか、という素朴な疑問がある。

◆基本目標①について

- ・移住者はまず農業特区である養父に相談に来て朝来や豊岡を続けて検討しており、近隣に流れていると感じる。移住者のサポートにとって一番大事なのは仕事である。養父市では就農希望者が多くいるが、彼らには「新規就農は東大に入ることよりも難しい」と説明する。
- ・移住者へのサポート体制は多くの自治体が徹底しているが、移住希望者が見ているところは補助金などではなく、「そこで夢ある暮らしが実現するかどうか」という深いところである。そこを考えていかないと競争に負けてしまうのではないか。
- ・移住には物語があるのだから、希望者に適切に伝えてあげることで、呼び込めるのかもしれない。
- ・子育て・移住サポートセンターでの活動のなかで知り合った方々が、勝手に新しいことを考えて、どんどん進めている。今は儲けにはならなくても、自分の特技などを活かせることをたのしんでいる。・このような活動を仕事として捉えることを考える必要があるのでは。儲けにはならなくても世の中に役に立っている仕事は必ずある。そういうところを評価してあげられる仕組みを市役所は考えるべき。
- ・朝来は、高校生をターゲットにまちの魅力をどう伝えて行くかを積極的に考えている。養父市では、彼らにどう伝えているのか。サードプレイスと言われているような、活動の場を創っていかなければならないのでは。

- ・養父市のなかで場をうまく活用して活動が広がっている動きもある。関わっている人たちが問題を他人ごとではなく「自分ごと化」し、場のなかで繋がって勝手にプロジェクトが動いているという感じがする。
- ・UIJ ターンについて、特に U と I は別に考えないといけない。ひとつひとつ考えるべき。
- ・移住について、養父市の魅力を感じやすいのは養父市出身者ではないか。I ターン者よりも U ターン者に向けて PR するほうが分かりやすい。
- ・若い人は危機を感じていないのだと思う。地元にいる人たちが危機的な状態であること伝えてあげること、これからの世代は帰ってくるのではないか。
- ・朝来の方がいいと感じる人がいるのも勤め先が無いのが問題。企業があれば、定住に繋がる好循環が生まれる。
- ・危機感を共有できるのか。課題を共有するためにはディスカッションが重要。さまざまな会議でも、一方的な説明のあと一問一答がある程度で、議論になっていない。それで課題を共有できているのかという疑問がある。
- ・地元の人が帰ってくることにお金を使うのは効率的である。

◆基本目標②について

- ・農業で儲けることは難しいが、今後、規模を拡大する動きも必要だと考える。
- ・支援事業について、観光やカバンに集中している豊岡市よりも、養父市の制度広く薄くであり、全体的に公平なものであるなので個々の事業者が上手く利用できると思う。制度の情報共有を進め、活用してもらうことが大切なのではないか。
- ・小さな農家や企業にとって支援される制度は少ないと感じている。大きな農業、企業への PR をするほど小規模な農家や事業者にとっては自分に対してではないと感じたり、圧になるということもある。もっと小さな農家や地元の人に光を当ててほしい。
- ・養蚕プロジェクトについて、養父市では時期尚早というより手遅れの状態である。昔と商売形態は全く違うことを理解して、事業を検証していかなければならない。
- ・企業戦略については銀行の力を借りてやっていくなど、実験的な試みもやっていかなければいけないのかもしれない。これまで避けて来たことを弄らないといけない時期がきたのではないか。
- ・上手いかない事業も「時期尚早」じゃなく、夢のあることでいいと思う。市役所に夢がなくなっているのかなと、残念な気がした。
- ・但馬銀行では但馬中心に人材確保や受け入れ体制の支援など地元での経済循環を高める動きを支援している。そのように、マクロ的に見て、一緒に話し合っていけばよいのではないか。チャレンジしていきたい。

◆基本目標③について

- ・子育てに関する制度は充実しているが、その内容をしっかりと周知することも必要。
- ・病児保育の話が進んでいない。

◆基本目標④について

- ・自治組織の委員になるのは 50 代から 70 代の人ばかりで、それ以外の年代は関心がないし、女性の参加も少ないという現状がある。昔からの流れであり、変わらないのは仕方ないとも感じている。

- ・毎日元気にクラスについて、動きたい人には物足りなくなり、負担が大きい人も来なくなるなど、一度参加してもだんだんと参加しなくなってきており、やっただけで終わる可能性がある。事業の物足りなさを感じているが、今後は少数のグループでも継続して運動などの活動を続けていくのが大事。KPI 目標値について、自治組織にすると難しさがある。

◆その他

- ・先日の豪雨特別警報の時、豊岡市では特別警報がでた時に消防団員は自宅に帰れという指示があったが、養父市ではなかった。旦那さんがいない中で、子どもや自分の命を守れと言われてもどうやって守れば良いのかわからない方もいたようだ。今後特別警報の時には、どう対応するのか検討してほしい。
- ・災害に関連して、避難者 4%というのは何の数字なのか。私も区の役員のため避難所に行っていたが、その数も入っているのか。また、はたして公民館は自宅よりも安全なのか、という中で%の話はどうか。

◆まとめ

- ・これまで通りのことをやっていたはいけない。それに早く気付いて実行することが重要なかもしれない。特区もそうであるが、自分のところに光が当たっていることを感じるのが大切かもしれない。もう少しアプローチを考えた方がいいのではないか。
- ・全体の事業のうち 1、2 割さらには半分の事業をやめたらどうなるのか、それで人口が減るのか。それくらいの発想で見直すことが必要ではないか。ひとつひとつの KPI を見れば「妥当である」と感じてしまっている。
- ・人口減少抑制に何が効いているのか、効果のある事業なのかを整理しておかなければ人口は増やせない。これを見る人は、人口減少の抑制に繋がっていないと思ってしまう。
- ・事業はバリエーションが広がってきているので、若い人に伝わるように整理するのが良いのかもしれない（例えば、暮らしの中に農があるのはどういうことか、人口の話とどう関係するのか、それとも分けて考えるのか）。
- ・人口 1 万人になっても養父市の住民は豊かだという話はできないか、という話。もっと対象を決めて、挑戦できるようなことを探さないと。
- ・防災のことひとつでも、もっと深めないといけない。
- ・人口や生活が地域ごとにどう変わってきているのかという検証が必要ではないか。